

■ 事業評価

第4次グランドデザインでは、機運醸成活動あるいは社会実験を重ねることにより新たな活力を誘発し地域の文化力を高める事業活動の効果を評価する指標としては、必ずしも数量だけでは測りきれないため定量評価に加えて定性評価も合わせ行うとした。

この内、定量評価においては事業遂行に関わった主催者側の人数や参加者数を、当協会が主催した事業に留らず協奏と共創事業においても算出し、また助成事業においても助成対象事業の社会的波及効果を定量的に把握。これに定性的な評価を加え、総合的な5か年にわたる累計成果を評価することとした。

具体的には、文化庁が掲げる2020東京オリンピック、パラリンピックを機に展開される文化プログラムの目標値(20万件のイベント、5万人のアーティスト、5,000万人の参加)に対し、関西の取組みを総合的、俯瞰的にとらえた定量的な目標値として、5か年で **■3万件のイベント** **■3,000万人の参加** **■30万人の発信者(主催者側の関係者)** を掲げた。

しかしながら、新型コロナ禍により東京オリンピック、パラリンピックの2021年への延期、その開催に連携した文化プログラムの中止など、2年以上に及ぶ混乱により当初設定した関西の目標値の前提が成り立たず、成果の検証が不可能となったことから、当協会の5年間の「事業区分」毎の実績評価を記すことに改める。

I 助成と顕彰

(1) 日本万国博覧会記念基金事業

2017～2021年度の5年間、1970年万博の理念である「調和的発展の精神」の趣旨に沿った国内外の活動240件に4億1,540万円の助成を決定し、1971年の開始以来50年以上にわたり、世界114か国で約4,700件、総額約194億円の助成を果たしてきた。

2021年度からは複数年度にわたる事業への助成、来日して大学院で日本の伝統文化を学ぶ留学生に対する奨学金制度を開始するなど新たな取組みも行い、時代変化も考慮した助成をこれからも継続していくための節目の年となった。

【万博記念基金事業 助成額実績 (2017～2021)】

事業分類	2017 (平成29年)			2018 (平成30年)			2019 (令和元年)			2020 (令和2年)			2021 (令和3年) ※見込み		
	件数	助成額 (千円)	参加者数 (人)	件数	助成額 (千円)	参加者数 (人)	件数	助成額 (千円)	参加者数 (人)	件数	助成額 (千円)	参加者数 (人)	件数	助成額 (千円)	参加者数 (人)
国際文化交流、国際親善に寄与する活動	15	37,396	10,076,442	27	47,660	121,841	25	51,174	165,046	13	17,060	526,590	23	36,800	115,370
学術、教育、社会福祉、医療等の国際活動	15	16,300	9,397	14	22,832	10,958	15	27,479	10,620	8	9,460	17,300	7	11,000	33,532
自然保護、人間環境保全の国際的活動	2	3,900	535	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
日本の伝統文化の伝承と振興活動	13	15,213	10,314	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
芸術及び地域文化に関する活動	11	16,442	25,596	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
留学生奨学金	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	6,000	-
計	56	89,251	10,122,284	41	70,492	132,799	40	78,653	175,666	21	26,520	543,890	35	53,800	148,902

(2) アーツサポート関西事業

関西・大阪における寄付文化(タニマチ精神)の醸成と文化支援の安定財源の確保を目指し、民の寄付による文化支援を一層推進する目的で2014年に設立以来、8年が経過した。2017～2021年度の5年間では、「一般公募助成」と特定の分野の団体・個人の活動を支援する「個別寄金助成」を合わせ 146 件のアーティスト及び団体の活動に、6,135 万円の助成を行っており、この間、「一般寄付」や特定の分野の団体・個人を指定した「特定寄付」を合わせ 5,357 万円の寄付金を得ている。

特定寄付による関西の若手作家を対象とする「上方落語若手作家グランプリ」の催しは第7回を数え、グランプリ獲得者がその後、他の賞も受賞していくなど、今では若手落語家の登竜門としてしっかりと定着している。

【アーツサポート関西事業 寄付実績 (2017～2021)】

寄附種類	2017 (平成29年) (千円)	2018 (平成30年) (千円)	2019 (令和元年) (千円)	2020 (令和2年) (千円)	2021 (令和3年) (千円)
一般寄附	1,796	1,827	1,932	1,826	1,865
個別寄金寄附	2,100	8,550	7,500	2,050	5,050
運営費寄附	4,330	0	0	0	160
サポーターズ・クラブ個人会費	1,030	860	860	650	630
サポーターズ・クラブ法人会費	0	2,200	2,900	2,750	2,500
計	9,256	13,437	13,192	7,276	10,205

【アーツサポート関西事業 一般公募助成交付決定額 (2017～2021)】

分野	2017 (平成29年)		2018 (平成30年)		2019 (令和元年)		2020 (令和2年)		2021 (令和3年)	
	件数	決定額 (千円)	件数	決定額 (千円)	件数	決定額 (千円)	件数	決定額 (千円)	件数	決定額 (千円)
美術・デザイン	3	850	3	1,300	2	1,000	3	1,700	4	1,600
音楽	3	1,150	4	1,400	3	1,400	4	1,100	3	1,000
舞台芸術	3	1,000	5	1,600	4	2,200	3	1,300	4	1,400
伝統芸能	0	0	2	700	1	400	2	900	2	1,000
合計	9	3,000	14	5,000	10	5,000	12	5,000	13	5,000

【アーツサポート関西事業個別寄金助成実績（2017～2021）】

2017 (平成29年)		2018 (平成30年)		2019 (令和元年)	
寄附者／寄金名称	寄附額 (千円)	寄附者／寄金名称	寄附額 (千円)	寄附者／寄金名称	寄附額 (千円)
上町台地の歴史と未来創造のための文化活動寄金	5,000	岩井コスモ証券ASK支援寄金	4,000	岩井コスモ証券ASK支援寄金	4,000
岩井コスモ証券ASK支援寄金	4,000	丸一鋼管文楽支援寄金	2,500	丸一鋼管文楽支援寄金	2,500
岩谷産業文楽支援寄金	2,500	日本電通メディアアート支援寄金	1,000	日本電通メディアアート支援寄金	1,000
寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金	500	寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金	500	八千代電設工業伝統芸能支援寄金	1,000
八千代電設工業伝統芸能支援寄金	500	八千代電設工業伝統芸能支援寄金	500	寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金	500
合 計	12,500	上町台地現代アート支援寄金	500	北俱樂部記念寄金	450
		北俱樂部記念寄金	450	ソフィア寄金	50
		ささやか寄金	50	合 計	9,500
		ソフィア寄金	50		
		合 計	9,550		

2020 (令和2年)		2021 (令和3年)	
寄附者／寄金名称	寄附額 (千円)	寄附者／寄金名称	寄附額 (千円)
岩井コスモ証券ASK支援寄金	4,000	岩井コスモ証券ASK支援寄金	4,000
寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金	500	八千代電設工業伝統芸能支援寄金	500
八千代電設工業伝統芸能支援寄金	500	上町台地現代アート創造支援寄金	500
上町台地現代アート創造支援寄金	200	日本電通メディアアート支援寄金	1,000
匿名寄金	50	寺田千代乃 上方落語若手噺家支援寄金	500
一花咲かせろ寄金	50		
合 計	5,300	合 計	6,500

(3)大阪文化祭賞

大阪府、大阪市との共同主催事業で、当協会が事務局機能を担い「伝統芸能・邦舞・邦楽」、「現代演劇・大衆芸能」、「洋楽・洋舞」の3部門で1年間に大阪府内で行われたすべての公演を対象に、優れた成果を上げた個人、団体を表彰している。2021年度で58年目を数え、大阪の文化に纏わる賞として定着している。更に歴史を重ねるべく、今後、より一層の内容の充実を図っていく。

(4)アートストリーム

2003 年以来、関西の新進気鋭のアーティストに発表とビジネスマッチングの場を提供してきており、最近では毎年、公募・審査により海外のアーティストを含め 80～90 人台の出展と 3,000～4,000 人台の来場者を数えるなど、安定した開催を続けてきた。

しかしながら、新型コロナ禍の影響により 2020 年、2021 年は開催中止の止む無きに至り、同時に会場を含めた開催環境の変化もあり、2022 年以降の開催を断念し 20 年にわたる歴史に終止符を打つこととした。それに代わり 2022 年度からは、大阪中之島美術館と連携した若手アーティスト支援事業を行う。

(5)文化芸術による次世代育成プログラム(学校アートプログラム)

2021 年度より、独自の関西・大阪の文化芸術の活性化策として、

- ・芸術のすそ野を広げる(鑑賞者・体験者の増加)
- ・豊かな感性を持つ人材の育成(人間力・他者との協働・発想力・課題解決力などの向上)
- ・教員・アーティストへの気付きの創出(人材育成)

等を目的に、小学校にアーティストを派遣し文化芸術体験授業(ワークショップ)を連続して行う「学校アートプログラム」を開始した。初年度は、大阪府南部の 2 市 1 町の 4 小学校を対象に実施し、「インドネシアの影絵と音楽」、「映画づくり」、「スタンドグラスづくり」、「アニメーションづくり」の 4 テーマから各校が選び、専門のアーティストが赴いて児童たちと作品を仕上げている。

今後、関係分野の専門家に委嘱した評価委員の意見や児童たちの反応を踏まえ、学校や教育委員会とも調整しながら継続して、また実施エリアも広げながら実施していく予定である。

II 関西・大阪のブランドの発掘と発信

(1)シンポジウム・フォーラムの開催 …「関西・大阪文化力会議」など

「和食」がユネスコ無形文化遺産に登録され世界的に関心が高まる中、和食を系統的に整理し、和食文化の継承や普及の方向性を見定めるため、2017 年、2020 年に関西・大阪文化力会議『和食フォーラム』を開催した。2020 年開催の際は新型コロナウイルス感染症が全国に蔓延した状況に鑑み、当協会事業では初めて大阪、兵庫、奈良 3 府県の 5 地点を結んでオンラインで開催し、当協会ホームページから同時と後日の二系統で配信した。

また、2017 年に当協会が共催した「2017 食博覧会・大阪」では、博覧会全体の方針立案、企画・運営に関して提案、指導、調整など総合的な監修を行っている。

(2)「なにわ大坂 100 人選」プロジェクト …大阪にかかわる人物選を発刊

2013 年度より古代から近世にかけて「なにわ」「大阪」で活躍した 100 人を選び 5 年にわたり調査研究してきた結果を、2017～2019 年度に「なにわ大坂をつくった 100 人」と題し 3 巻(上・中・下)に分冊して発刊。人物を通して文化や政治面から大坂、大阪との関わりを深掘りして発信。同様の内容は、追って当協会ホームページにも掲出している。

(3)映像の制作と発信……関西にまつわる種々のテーマから

下記の映像を地元 CATV と共同で制作し、同TVおよびYouTubeによる発信を行った。

『四季折々の関西』…… 関西のイメージ向上を図るため、関西国際空港の公共スペースを活用して関西の四季を紹介する映像を制作、発信してきた。2009 年以来、継続して実施してきたが新型コロナウイルス感染症対策のための海外移動制限、空港ビル改修に伴うスペース撤去もあり、2020 年 7 月をもって終了した。

『御食国 関西』…… 「日本酒」、「醤油」等をテーマに、天皇に食材を献上してきた関西の食文化の魅力を発信する映像(2作)

『関西・大阪 地理、歴史』…… 大阪の梅田、なんばの地理や歴史を大学教授の解説を交えて紹介する映像(2作)

(4)「KANSAI*OSAKA 文化力」の発行

「文化で関西・大阪を元気にする」を基本理念に、関西で活躍のアーティストや企業のトップインタビュー、今注目のテーマを特集するほか、当協会の事業紹介等を通じて関西の文化を語る機関誌を年 2~3 回発行している。

Ⅲ 伝統の進化と創造

(1)関西のアーティストによる舞台芸術の発信

関西・大阪の舞台芸術を代表するアーティストとのコラボレーションによる新たなパフォーマンスも交え、関西・大阪の文化を広く国内外に発信してきた。各催しは、東京オリンピック・パラリンピックの文化プログラム「beyond 2020」の認定を受け、それに相応しい内容を目指してきた。

・交響楽能(2017 年度)…… 世界での活躍を目指す関西の若手のチェロ演奏家やオーケストラの演奏による能舞台の創出などを交え、関西の持つ舞台芸術の奥深さを演出し発信した。

・Flügel abend(2018, 2019 年度)…… Beyond 2020 に相応しく、オリンピックの各種目をバレエで振り付けたスペシャルプログラムはじめ、バレエ・オーケストラ・浪曲のコラボレーションによるステージ、関西出身の二大ソプラノ歌手の競演など、実験的なステージも含め多彩な構成で関西の持つ舞台芸術の奥深さを演出し発信し続けた。

(2)吹奏楽演奏の展開

「御堂筋パレード」以降も、様々な形で高校吹奏楽の演奏の機会を創出し、その育成推進の場の提供に貢献している。

・大阪城公園での演奏(2019 年度)…… 関西地区を中心に中高校 10 校のマーチング演奏を披露

・マーチング演奏の WEB 配信(2020 年度)…… 関西の実力校 5 校の演奏の模様を収録し WEB で配信等を実施した。

(3)北前船寄港地の連携支援

かつて蝦夷地と大坂を日本海経由で結び経済、文化の進展に寄与した「北前船」の寄港地で、日本遺産に認定されている市町の内、関西地区 10 市町の連携事業で企画、運営と事務局機能を担い、文化資産活用による地域の活性化に貢献している。

- ・大阪市(2019 年度)…… 住吉大社にて、日本遺産活用策の検討、日本遺産の見学・解説を実施
- ・兵庫県新温泉町、神戸市(2020 年度)…… 日本遺産活用策の検討、解説付きの見学を実施

また、2017 年開催の「2017 食博覧会」では、全認定市町(当時)を対象に地元食文化を紹介するブースを出展し、上方に昆布を運んだ北前船に相応しいテーマで催しを盛り上げた。

(4)日本博への参画

2020 年度、文化庁公募事業「日本博」に参画。古来、天皇即位時に催行されてきた「八十島祭」にスポットを当て、シンポジウムの他、奉祝芸能の披露、最先端技術による歴史の紹介など、「国家ブランディング」の強化と「観光インバウンド」の持続的拡充を目的に多彩なプログラムを展開した。

(5)上方文化芸能の振興と無形文化財の保護・育成

- ◇上方花舞台…………… 歌舞伎、舞踊、能、狂言等で構成し、上方の伝統文化に親しむ舞台を毎年、提供している（※2020 年度は新型コロナ禍により中止）
- ◇上方文化を味わう…………… 天神祭「船渡御」への参加、日本最古といわれる奈良・大神神社での能楽披露等、伝統ある上方文化を体験する機会を提供している
- ◇無形文化財の保護、育成…… 住吉大社「御田植神事」、今宮戎神社「宝恵駕行列」の催行に対し、人材を含めた支援を実施している（※2020、2021 年度は新型コロナ禍により両催しとも神事のみ実施）
- ◇「やそしま」発行…………… 上方文化の歴史、現状、未来を語り、啓発を続ける目的で毎年、発行している

【文化振興事業 事業実績(2017～2021)】

事業種類	2017 (平成29年)		2018 (平成30年)		2019 (令和元年)		2020 (令和2年)		2021 (令和3年)	
	事業費 (千円)	参加者数 (人)	事業費 (千円)	参加者数 (人)	事業費 (千円)	参加者数 (人)	事業費 (千円)	参加者数 (人)	事業費 (千円)	参加者数 (人)
1. 助成と顕彰	5,127	3,293	4,019	2,616	3,960	3,699	1,016	-	3,310	374
人材育成(アーティスト支援)	5,127	3,293	4,019	2,616	3,960	3,699	1,016	-	3,310	374
2. 関西・大阪ブランドの発掘と発信	15,645	661	11,856	427	9,239	337	7,076	1,872	3,616	816
シンポジウム・フォーラムの開催	3,930	250	-	-	-	-	2,170	525	-	28
関西和食文化のブランディング	756	223	680	246	691	189	-	-	-	-
関西ブランドの発掘・調査・研究	2,790	40	3,395	-	-	-	-	-	660	-
関西ブランドの発信	6,798	-	6,493	-	7,294	-	4,391	1,347	2,442	788
ネットワークキングと理解促進	1,371	148	1,288	181	1,254	148	515	-	514	-
3. 伝統の進化と創造	10,820	1,006,848	12,678	867,559	14,616	908,442	17,315	3,007	280	-
コラボレーションによるまちづくり	10,420	1,006,848	12,278	867,559	14,212	908,442	17,215	3,007	170	-
上方文化芸能の振興と無形文化財の保護・育成	400	-	400	-	404	-	100	-	110	-
合 計	31,592	1,010,802	28,553	870,602	27,815	912,478	25,407	4,879	7,206	1,190
上方文化芸能事業	24,031	740	49,364	2,030	35,478	1,341	2,103	0	58,750	1,200
総 合 計	55,623	1,011,542	77,917	872,632	63,293	913,819	27,510	4,879	65,956	2,390